

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 008	提案機関名 小田原市
要望問題名 たまねぎの黒腐菌核病について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 かながわブランドに指定されている本市の玉ねぎについては市内外で人気を博しているが、令和4年から従来のべと病に代わり、黒腐菌核病の被害が深刻になっている。ガスタードによる土壌消毒も実施しているが、ビニールシート等の被覆作業が対応困難である生産者もあり、根絶には至っていない。 農業技術センターにも助言いただいているところであるが、生産者からは、セイビアーによる浸漬やパレードの散布について、その効果をより高める方法や、連作障害における原因要素の絞り込み（例えば肥料の成分、玉ねぎ自体の分泌物など。）を求める声が高まっている。 病害が続くとかながわブランドでもある玉ねぎ生産に大きな影響が生じる恐れもあるため、ぜひ持続可能な取り組みを研究いただきたい。 (令和4年度：被害発生園地 33,582 m ²)	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部、足柄地区事務所
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) Ⅱ-3(2)ア(i) 難防除病害虫の防除技術の開発(令和3～5年度)		
対応の内容等	タマネギ黒腐菌核病は、菌核が土壌中に長く生き残り、伝染源となります。タマネギ黒腐菌核病の病原菌はネギ黒腐菌核病を引き起こす病原菌と同じです。農薬を使用しない方法であれば、被覆作業が必要ではありませんが、太陽熱土壌消毒、土壌還元消毒に土壌中の菌核を減少させる効果があることがネギの黒腐菌核病で報告されています。また、土壌pHを上昇させることでタマネギ黒腐菌核病の発病が抑制されることも明らかとなっています(備考参照)。 挙げいただいたセイビアーフロアブル20、パレード20フロアブルは農薬登録されていますが、ほ場の菌密度や土壌条件により、農薬の使用のみでは不十分な場合もあります。農薬の適切な使用時期を含め、そのほ場に合った防除対策を、まずは足柄地区事務所普及指導課と相談し、決定された方がよいと考えます。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考	ネギ黒腐菌核病発病リスク低減のための管理方法(令和5年度農業技術センター試験研究成果)		